Vol.3　PE 試験合格体験記（Civil, 2008）

〇氏名：汐崎亮介
〇会員番号：PE0156
〇専門分野：CIVIL (Geotechnical)
〇試験日と会場名：2008 年 4 月 12 日
横須賀米海軍基地（Current Military Only）
〇PE 試験挑戦回数：１回
〇使用した参考書、問題集：

- Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam
- Civil Engineering Problems - Solving Flowcharts
- Six-minute Solutions For Civil PE Exam Geotechnical Problems
- Civil PE Sample Examination
- Practice Problems for the Civil Engineering PE Exam
- PE Civil Sample Questions and Solutions Book
- FE Review Manual: Rapid Preparation for the General Fundamentals of Engineering Exam
- FE 試験用 Reference Handbook

〇勉強時間：100 時間程度
〇試験場に持参した図書類：上記の参考書及び問題集に加えて英和辞典と PE 試験受験 TIPS

合格体験記

(1) 試験勉強等

実際の試験問題は PE Civil Sample Questions and Solutions Book（以下 PE-CSQSB）の練習問題に非常に良く似ており、その他の参考書の練習問題は実際の試験問題より難易度が少し高めであった。勉強は PE-CSQSB と Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam（以下 CERM）を中心に活用し、苦手分野は他の参考書も使って深く掘り下げていく形を取った。今回から Civil の分野に新しく追加された Construction(施工)については参考書が無かったので勉強をしないでぶっつけ本番で臨んだが、その内容はプロジェクトマネジメントの分野と共通する部分が多く、鬼金で学んだプロジェクトマネジメントの知識が役立った。PMP を取得しておいて本当に良かった。私が感じた試験問題の難易度は、私の得意分野であり実務経験が多い Geotechnical(地盤)と Structural(構造)は簡単であったが、実務経験が皆無の Water resources & Environmental(水資源と環境)の問題はお手上げであった。また Transportation（交通）は、実務経験も無ければ事前勉強も基本的なことに止めたにも関わらず、試験中に参考書を調べれば容易に解答できる問題が比較的多く、意外にも大きな得点源となった。試験中に役立った資料を順に挙げると、CERM、PE-CSQSB、FE 試験用 Reference Handbook である。他の受験者は分厚い規準書を何冊も持ち込んだりしていたが、実際の試験は問題と一緒に準拠すべき規準（図表や計算式）が示されていることが多く、そこまでする必要は無かった。

(2) 試験会場

自分は防衛省勤務であり横須賀基地での受験が可能であった。受験票が試験２週間前にＥメールで送られて来た。前日に試験会場の下見をした帰り、基地内のバス停で座っていると、通りすがりのアメリカ人が声を掛けてきて、車で基地の出口まで送ってくれた。その親切なアメリカ人と話をしてみたら、偶然にも彼は PE（機械）であった。私が「明日の PE 試験の下見に来たのだ。」と言うと、彼は「日本人でありながら PE の資格取得を目指してがんばっているなんて、尊敬するよ。幸運を祈る。」と心強い言葉をかけてくれた。横須賀の米海軍基地で受験したのは PE が７人、FE が１人であり、PE 受験者７人の内５人が Civil で２人が Mechanical であった。

(3) 試験後

自信を持って解答できたのは 85%であったが、もしかしたら合格ラインが今年は高いかもしれないと不安な日々が続いた。試験が終わって 2 週間程経過した頃、オレゴンから法律と倫理の試験問題が届いた。この試験は全部で 42 問を解いてオレゴンへ送り返さなければならないのだが、いざ取り掛かってみると最初の 5 時間で 15 問しか解けず、想像より遥かに難問であった。合格するには 70%以上を得点しなければならない。とにかく GW を潰して、全力で最後のテストに取り組んだ。6 月中旬に合格通知の手紙が届いたのだが、手紙には「免状は 8 週間後ぐらいに送る」と書かれてあった。約束どおり 8 月中旬に免状が手元に届いた時、大学院(修士課程)修了後 7 年間の努力がようやく PE 合格に結び付いたのだと一安心した。